

## 令和7年度 第3回 甲賀市環境審議会 議事摘録

---

開催日時	令和7年（2025年）10月3日（金） 14時30分～15時50分
開催場所	みなくち子どもの森 自然館2階 講習室
出席委員(敬省略)	8名（欠席なし） 【委員】竺文彦、中島仁史、横田岳人、金子利佳、石山利則、近藤秀幸、森脇賢、糸井豊美
事務局	7名 【市民環境部】前田三嗣 【環境未来都市推進室】相原功志、西野久俊 【生活環境課】方山淳、三鷹明寛 【みなくち子どもの森】小西省吾、安在森祐
傍聴	なし
会議次第	1. 市民憲章唱和 2. あいさつ 3. 審議事項 （1）甲賀市生物多様性地域戦略について （2）答申について 4. 報告事項 （1）甲賀市の環境概要（令和6年度版）について
配布資料	・【資料1】甲賀市生物多様性地域戦略（案） ・【資料1－2】主な変更箇所（第2回審議会以降） ・【資料2】甲賀市生物多様性地域戦略の策定について（答申） （案） ・【資料3】甲賀市の環境概要（令和6年度版）

## 会議内容

1. 市民憲章唱和

2. あいさつ（会長）

3. 審議事項（会長進行）

（1）甲賀市生物多様性地域戦略について

会長> 甲賀市生物多様性地域戦略について事務局から説明願う。

事務局> （資料1・資料1-2により、甲賀市生物多様性地域戦略について説明）

会長> 説明のあった変更箇所について意見をいただき、その後、それ以外の意見をいただきたい。

会長> 表紙について、変更されたがどうか。

委員> 親しみやすくなった印象だが、企業や市民が生物多様性の保全に参加している姿が描かれている方がネイチャーポジティブに向かっていくイメージとなってよいのでは。

委員> 表紙のページ番号は不要ではないか。

事務局> 最終的に調整を行う。

会長> 個人的には前の方がよい。里山風景よりも街をいかに自然化していくかが大切であると思う。新しい絵の花がササユリだと気付く人は少ない。また、他の市町でもこの里山風景と似た風景があるため、甲賀市といえばササユリだと強調した方がよいのでは。

委員> 表紙の文章にある最初の3行を体現する絵だと思うため、新たなイラストがよいと思う。

委員> 未来に向かう絵を使用する方がよいと思う。こちらは過去のイメージが強いため、どちらかと言わざると前の方がよい。

委員> 新案では、田舎に見えて寂しい気持ちになる。また、この絵だとササユリが伝わりにくいため、大きいササユリの絵を新案に挿入するのもよいのでは。

委員> 最初のササユリの絵の方が力強くてよいと思う。

事務局> 裏表紙が空いているので、どちらかを裏表紙で使うこともできる。

委員> 新たなイラストは、田舎の自然風景を強調しすぎていると感じた。工業が盛んなまちなので、遠くの方に工場やビルの風景も見えるとよいのでは。

事務局> 答申後に、いただいたご意見を踏まえて事務局で作成したいが、いかがか。

会長> 現在挙がっている案で、ある程度形にしてしまう方がよい。

街が山の裾野に入っているが色が薄く分かりにくい。濃くするのはどうか。

事務局> 現在修正中で、全体的に濃い色合いで完成する予定である。

委員> 現状がササユリの絵、将来像がササユリが咲くのどかな風景の絵を指すと思う。この戦略を読んで最後に新案の絵がくる方が構成としてよい。

会長> 表紙にササユリ単体の絵、裏表紙にのどかな里山風景の絵を採用する。

会長> 各ページの内容について意見を出していただきたい。

委員> 2ページ1行目「発見されていない生きもの」は「記録されていない生きもの」とする方がよい。発見はしているが生物学的に名前が付いていない生きものがこちらに相当しているため、「記録されていない」とする方が正確な表現であると思う。

事務局> 修正する。

委員> 4ページのニホンカモシカの後にのみ「(土山)」とあるが必要か。

事務局> 確認して不要なら削除する。

会長> 5ページのビワマスの写真が見えにくい。写真がなければ、大きな河川がタイトルなので、他の魚でもよいのでは。

事務局> ビワマスが遡上してくることもあり、野洲川の写真と一緒に並べる形で掲載を検討していた。他に適当なものがないか検討する。

委員> 6ページの図で「生物多様性保全上重要な里地里山」、「生物多様性保全上重要な場所」の違いは何か。

事務局> 青色の「重要な里地里山」は国の指定で、ピンク色の「重要な場所」は市で挙げた場所である。地図及び表の分かりやすい見せ方を検討する。

委員> 7ページの棚田の写真が開発のように見えてしまう。

事務局> 本市の棚田は段差が少ないため、分かりやすい写真が撮りにくいが、よい写真が用意できないか検討する。

委員> 8ページ基本戦略2の1行目で、「農薬や化学肥料が使用や除草剤の散布、防草シートの敷設」となっており、文として分かりにくい。「農薬や化学肥料が使用され、除草剤の散布、防草シートの敷設」とするのがよいと思う。

同段落5行目で、「森林の保水機能が失われるなど、森林の持つ多面的な機能が低下」とあるが、森林の機能の表現が重複するので、「森林の保水機能が失われ、多面的な機能が低下」とした方がよい。

委員> 9ページの2つ目と3つ目の段落で、「農作物獣害」と「農作物被害」が混在している。「被害」で統一した方がよいと思う。

和暦で記載されているが、西暦を並記した方がよいと思う。

会長> 年号は全体で統一をしていただきたい。

事務局> 修正する。

委員> 10ページの指標「伝統野菜の作付面積」の目標が令和10年となっているが、戦略の計画は令和12年度までである。統一は可能か。12ページについても同様か。

事務局> こちらはJAの令和10年までの計画データで、現在挙げることができ最長の年までの目標の数字を入れている。12ページについても同様である。

委員> 12ページ⑤5行目「新たな抽出も行っていきます」とあるが、何のことか。

事務局> 文化財は数年おきに見直しがされており、未指定のものを新たに追加していくことを検討している。また、天然記念物でも市で新たに指定するものはな

いか抽出を行っていくという意味合いである。

委員> 13ページ③2行目、「放置竹林等を少しでも減らし」の「少しでも」は削除してはどうか。

事務局> 削除する。

委員> 15ページ「進行管理」と「進捗管理」が混在している。「進捗管理」で統一する方がよいと思う。

会長> そのように修正をお願いする。

会長> 全体で意見があれば。

委員> 写真が多くて見やすい。生き物や地形があり子どもたちも興味がわく。子どもも目線で考えると棚田も分かりやすい写真がよい。学校でも活用したい。

委員> 冊子になるのか。簡略化したものは作成しないのか。もっと活用の場が増えるようにできないか。

事務局> 製本までは考えていないが、ホームページへの掲載や教育現場等で活用していただけるよう周知していきたいと考えている。

委員> 以前は各市町村の窓口で資料が手に入り、そのまちの環境に対する姿勢が窺えた。少数でも作成する方がよいと思う。

事務局> 検討する。

委員> 特に学校には配付してもらいたい。学生にダウンロードするように言っても、実際はほとんどしない。公開のみだとそこで終わってしまうが、配付すれば自ら考える契機になる。5年後の改定を見据え、データの蓄積や情報公開を進めるという姿勢であれば次につながる取組になると思う。ぜひ印刷物での配布を検討していただきたい。

委員> 地域戦略と併せて環境概要も、市の取組の流れが分かるように隔年でよいので、配布しやすい形で作成した方がよい。

事務局> 検討する。

委員> 9ページのアライグマの写真は檻に入っているものでよいのか。子どもが見たときにどうか。

委員> 現状を学ぶという意味では、そのままでもよいかもしれない。

委員> 写真の背景色の濃度を調節して動植物を見やすくできないか。

事務局> 検討する。

会長> ヨーロッパと日本で生物に対する意識に差がある。アニマルウェルフェアの講演会を実施する等、考えることのできる場所の提供をしてほしい。

また、市役所の駐車場の緑化ブロック導入や、屋上の緑化の検討をしていただきたい。屋上でミツバチの飼育をして新たな甲賀市の特産物にするのもよい。身近なところを自然化していくビオトープの考え方を率先して進めてほしい。

## (2) 答申について

会長> 答申について事務局から説明願う。

事務局> (資料2により、答申について説明)

事務局> 今回いただいたご意見をもとに修正を行った地域戦略を策定し、答申を行っていただく。

会長> 答申の提出は、どのように行うのか。

事務局> こちらの戦略は、環境基本計画の下の位置づけであるため、今回は事務局が書類を預かり、ご報告をさせていただく形をとりたいがよろしいか。

会長> よろしい。

## 報告事項

### (1) 甲賀市の環境概要（令和6年度版）について

会長> 甲賀市の環境概要（令和6年度版）について事務局から説明願う。

事務局> （資料3により、甲賀市の環境概要（令和6年度版）について説明）

会長> ご意見を出していただきたい。

委員> 3ページについて、生ごみ堆肥化循環システムの参加世帯数が増加しているのに、生ごみの収集量が年々減少しているのは、実際に出している人が減少しているからか。

事務局> カット野菜の利用増加や配達サービスの普及等で生活スタイルが変化し、排出量が減少したと分析している。また、参加世帯数は増加しているが、以前より一世帯の構成人数が減少している。そのため、一世帯あたりの排出量が減少しており、この集計結果になったと認識している。

委員> 4ページについて、廃食油リサイクルはディーゼルエンジン用燃料のみか。

事務局> S A F（持続可能な航空燃料）の業界では廃食油が不足していると聞いているが、本市の量では大手企業の買い取り量としては足りない。

委員> 15ページについて、温室効果ガス排出量が家庭部門は減少しているが、産業部門は減少していない。また、16ページの市役所における排出量が令和4年度から増加している。市として何か対策はしているのか。

事務局> 産業部分の排出量について、基本的には統計資料のため、工場の数が多く事業者自体の取組が反映できていない。今後、聞き取り調査を行って反映した数字を出すことを検討していく。

市役所における排出量増加については、教育関係施設の熱中症対策としてエアコンを整備したことが一因である。老朽化した施設に最新型の省エネ機器を導入しても、熱効率が改善しにくい問題もある。施設の統廃合や利用のあり方を検討していく。また、公共施設の照明機器のLED化を進め、CO<sub>2</sub>及び電気代の削減を目指している。

委員> 市の取組が見えるようにする方がよい。エアコンのメンテナンスも省エネにつながるので力を入れてほしい。

事務局> 設備運用で削減できるようにしていきたい。

委員> クールビズは進んでいるのか。アピールにもなると思う。

事務局> 通年でネクタイや上着を不要として、不快に思われるがない範囲でクールビズとウォームビズの取組を進めている。

委員> 6ページから9ページの河川の水質調査地点図について、令和6年度は調査を実施していないにも関わらず、調査地点だけのページが続いているのはもったいない。10～13ページの調査ポイントを地図に示し、位置関係と環境の動きが見えるようにしてはどうか。また、河川に色を付けて表示した方がよい。

14ページ自動車騒音の現況について、環境基準を超過した地点は目立つようにしてはどうか。

15ページ地球温暖化対策について、表データが令和3年度までとなっているが最新データはないのか。

事務局> 水質と騒音については、ご指摘の内容で修正する方向で進める。温室効果ガス排出量のデータについては、統計データを集計しており、最新のものが反映されるまで2、3年の期間を要するため、現在の資料が最新データとなっている。

委員> 16ページの写真の建物について、表に【写真】と入れるよりも写真の附近に名称を書く方が分かりやすいのでは。

事務局> 修正する。

委員> 19ページ環境保全協定の締結について、見直し2社とあるがどういう意味か。

事務局> 過去に締結している事業者の内容を見直し、最新の状態で改めて締結し直したという更新の意味合いだが、分かりやすい表現に改める。

委員> 21ページのレッドリストについて、絶滅危惧種にどの種が新たに指定されたのか分かるようにしてほしい。また、地域戦略1の方で「市レッドリストにおける新たに絶滅種になった種数」が4種と記載されているが、何が絶滅種になったのかをレッドリストに載せて欲しい。

22ページ②「生物多様性しがマップ（滋賀県）」とあるが、特別保護地区や第1種特別地域がどのようなものか説明が無いためイメージできず、わかりにくいく感じ。

事務局> 修正を検討する。

委員> 生物多様性地域戦略の根拠資料が環境概要になるはず。地域戦略で取り扱っている外来種や獣害の問題がこちらには出てこない。戦略の基準を明確にするためにも外来種・獣害などの自然環境に関する項目を増やしてはどうか。「生物多様性しがマップ」を活用して資料を作成するのもよいと思う。計画の根拠となる資料になるように、来年度の編纂の際には検討して欲しい。

委員> 15ページ地球温暖化対策について、CO<sub>2</sub>排出量削減の他の状況についても入れてはどうか。

事務局> 検討する。

委員> 25ページ支援自動販売機について、ウォーターサーバー設置でペットボトル削減を推進しているのだから、缶に変更する等の取組は可能か。

事務局> 企業の理念のもとリサイクルの取組をされている。こちらから制限をかけるのは難しいが、機会があれば提案していきたいと考えている。

委員> 甲賀市の断熱補助事業はあるのか。

事務局> 商工労政課の個人向けの住宅リフォーム事業補助金はあるが、事業者向けのものはない。

会長> 他にご意見はないか。なければ事務局に戻させていただく。

事務局> 最後に職務代理者から挨拶をお願いする。

## 閉会

職務代理者> 今回で甲賀市生物多様性地域戦略がまとまり、市長に答申する運びとなった。特に今回は事務局が大変苦労して作成されたと思うが、立派なものができて非常に感謝している。シンクグローバリー、アクトグローバリーのスローガンの「地球規模で考え、足元から行動する」という、まさにこういった姿勢が大切であると感じた。周知及び説明をしっかり行い、市民・事業者・行政が連携して実のある行動計画になればと思う。